



かがやけ

佐世保市立猪調小学校
文責 校長 鶴田 和久

今回の運営委員会の取組はハッピーフェスティバル

1月18日、昼休みの時間。運営委員会の企画による「ハッピーフェスティバル」一日目が行われました。

これは、赤・白の縦割り班でグループを組み行うもので、縦割り班のつながりを強めることを目的としたものです。

一日目の18日は、赤組は体育館でフラフープリレーとボール爆弾ゲームを行いました。白組は、家庭科室と4年生教室を使ったオリエンテーリング形式のクイズです。どちらのグループも運営委員会のメンバーが準備、司会進行、後片付けを自分たちの手でできばきと動き、「楽しかった。」と低学年の児童がつぶやく姿が印象に残りました。

担当の先生の話によれば、この日のために約4か月の準備期間を要したそうです。教師主導であれば、短時間で効率よくこの取組は実現できたかもしれません。

しかし、自分たちの手で、頭で、試行錯誤を繰り返しながら、工夫し、準備を重ねてきたからこそ、どうすればみんなが喜んでくれるかという問題意識をもって当日に臨むことができたのだと思います。この経験は、きっと将来へのすばらしい財産となることでしょう。

この取組は、あと一日残っていますが、一日目以上の充実した取組にしてくれると思います。

みんなのために動く運営委員、とてもかっこよく見えました。



さわやか 猪小 町内駅伝

1月20日は、江迎町町内駅伝大会でした。5、6年生の有志により結成された3チームが参加しました。

当日は、朝から激しい雨が降る時間帯もあり、実施できるのだろうか。しっかり力を発揮することはできるのだろうか。体調を崩すことにつながらないだろうかと心配しました。しかし、子どもたちが走り始める頃には、天候は回復し、暖かな日の光を浴びながら、元気いっぱい、無事に予定されていた区間をそれぞれ走りきり、自分のチームのタスキを次々につないで、見事にゴールすることができました。

小学生チームの参加は、全部で10組。その中で、猪調小学校は、2位、4位、7位という立派な成績を収めることができました。走り終わった後、みんなでぜんざいを食べている姿は、どこか満足気で、とてもさわやかに感じられました。



がんばった後のぜんざい。
最高！！

予定の確認にも熱が入ります。

第一走者。がんばります！

小学校算数で身につけさせたいもの

はるなさんたちは、学習した九九の表についてふり返りました。
まず、九九の表の、2の段と3の段に着目し、縦に並んでいる2つの数について話し合いました。

	かける数								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81



はるな

2の段の「4」と3の段の「6」、この2つの数「4, 6」の和は10です。「6, 9」の和は15です。「8, 12」の和は20です。どの和も5の段の数ですね。



ゆうか

「2, 3」の和は5です。「18, 27」の和は45です。やはり、5の段の数ですね。



ひろと

「8, 12」の和と、「18, 27」の和が、5の段の数になるわけを考えて式に表しました。

【ひろとさんの考え】

「8, 12」のとき	「18, 27」のとき
$8 + 12 = 2 \times 4 + 3 \times 4$	$18 + 27 = 2 \times 9 + 3 \times 9$
$= (2 + 3) \times 4$	$= (2 + 3) \times 9$
$= 5 \times 4$	$= 5 \times 9$
$= 20$	$= 45$



はるな

【ひろとさんの考え】のように、 $(2 + 3)$ とまとめることで、かけられる数が5になります。だから、5の段の数ですね。



ゆうか

2の段と3の段の縦に並んでいるほかの2つの数のときも、 $(2 + 3)$ とまとめることで、かけられる数が5になります。だから、2の段と3の段の縦に並んでいる2つの数の和は、5の段の数ですね。



ひろと

それでは、4の段と5の段の縦に並んでいる2つの数の和は、9の段の数なのかな。

4の段と5の段の縦に並んでいる2つの数の和は、9の段の数になります。9の段の数になるわけを考えて式に表します。

(1) 4の段と5の段の縦に並んでいる2つの数「32, 40」の和が、9の段の数になるわけを【ひろとさんの考え】と同じように考えて式に表します。下の㊦、㊧にあてはまる式を書きましょう。

$$\begin{aligned}
 32 + 40 &= \boxed{\text{㊦}} \\
 &= \boxed{\text{㊧}} \\
 &= 9 \times 8
 \end{aligned}$$

左の問題は、今年度の全国学力学習状況調査で出題されたものです。

私が小学生の頃は、算数の問題といえば、まず、書かれている問題で尋ねられていることを理解します。次に、答えを出すためにはどのような計算を行えばよいかと立式します。そして、間違いがないように正確に計算をし、答えを出します。内容が計算なのか、図形なのかによって、多少の違いはありますが、おおよそ、このようなものが多かったと思います。

しかし、現在、算数で求められている力というのは、上記のものとはやや違ってきていることが左の問題を見ると感じ取ることができるのではないのでしょうか。

自分なりの考えで答えを導き出すだけではなく、自分とは違う考え方をしているかもしれない、ほかの人の考え方を理解し、その考え方を順序立てて説明できなければいけないのです。

そのためには、もちろん、これまで同様に、2年生での九九の学習や3年生でのかけ算の性質、4年生での式の工夫といったそれぞれの学年で学習する内容を、まず、しっかりと理解しておく必要があります。

そして、問題を解くための自分の考えを、ほかの人に順序よく説明できるようにしなければいけません。

さらに、正解にたどり着くためには、一つだけの方法ではなく、多様な考え方があることを理解し、その考え方も順序よく説明できるようにならないといけません。

このためには、自分の考えを友だちに話し、友だちの考えを聞いて、お互いに理解し合うことがたいへん重要になってきます。

現在、猪調小学校では、この学習の取組について、研究を進めているところです。問題を解決する力を高めるために、他者を理解する力も高めていく。この力は、学校の算数の時間の中だけでしか使えない力ではありません。子どもたちが将来大人になった時に、社会を生き抜いていくために必要となる力へとつながっていくのです。(つづく)